

「子どもたちが自分のペースで自分に合った学び方を選択する」とは、先生が教えないということですか？

授業の中で、子どもたち自身が自分で学習目標、課題、ペースを決めるなど、自分で選択し決定する場面を増やしていくことで、主体的に学ぶ子どもを育てることを目指します。

そのため、先生の指示の下、同じ内容を、同じ方法、同じペースで学習していくような時間は減っていくでしょう。ただこれは、先生が教えなくなるということではありません。

先生は子どもたちの学習状況に合わせて、集団や個人に対して適切な指導や支援を行います。その際、子どもたち同士の学び合いを促す場面も、先生が直接教える場面もどちらも想定されます。

「自分らしく」など、個性を重視するような内容については良いが、協調性が低下しないか心配ですが…

公教育は、自分が生きたいように生きられる力を、誰一人取り残すことなく全ての人に育んでいくことを期して行われるものです。その際、自分が自由に生きるためには、他者の生きたいように生きられる自由もまた認め、調整し合うことができればなりません。

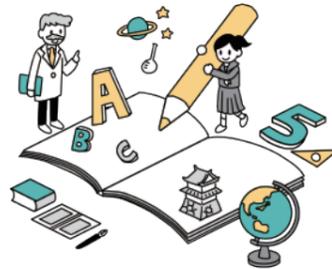
自分の個性が周りの人たちに大切にされることと、他者の個性を尊重する感性を育んでいくことは、両輪として進めていく必要があります。

学級ではもちろん、学年を超えて子どもたち同士が学び合ったり、地域とのつながりの中で多様な価値観に触れたりする機会を通して、他者と共に生きていく力を育んでいきます。

新しい教育大綱では探究的な学びが重視されているが、受験には対応できるのでしょうか？

自分なりの問いを立て、自分なりの方法で自分なりの答えにたどり着くといった探究的な学びは、子どもたちの「自ら学びに向かう力」を大きく育みます。この力は現行の学習指導要領においても重視されていますが、将来進む道を選択し、人生を切り開いていくために必要な力の基礎となります。

また、探究的な学びをカリキュラムの中核に据えることで、子どもたちの学びへの意欲が向上し、結果として受験において求められる知識の定着や考える力の育成にもつながります。同時に、課題を自ら設定し学んでいくという姿勢は、受験勉強においても大きな力になるでしょう。



今、教育を変える理由

少子高齢化・人口減少など国内の問題に加え、感染症、気候変動、国家間の紛争など地球規模課題の深刻化や、人工知能(AI)の急速な進化など、私たちはまさに予測困難な社会を生きています。

これからの国際社会では、「新しい価値を創造する力」「対立やジレンマを克服する力」「責任ある行動をとる力」等を身につけ、多様な価値観や背景を持つ人たちと互いの自由を認め合いながら共に生きていくことが求められます。

一方、国内の小中学校における不登校の児童生徒数は約30万人(令和5年10月文部科学省調べ)と過去最高になっており、子どもたちの多様な学習ニーズに、学校や学校を支える教育行政が十分に対応できていないという状況にあります。

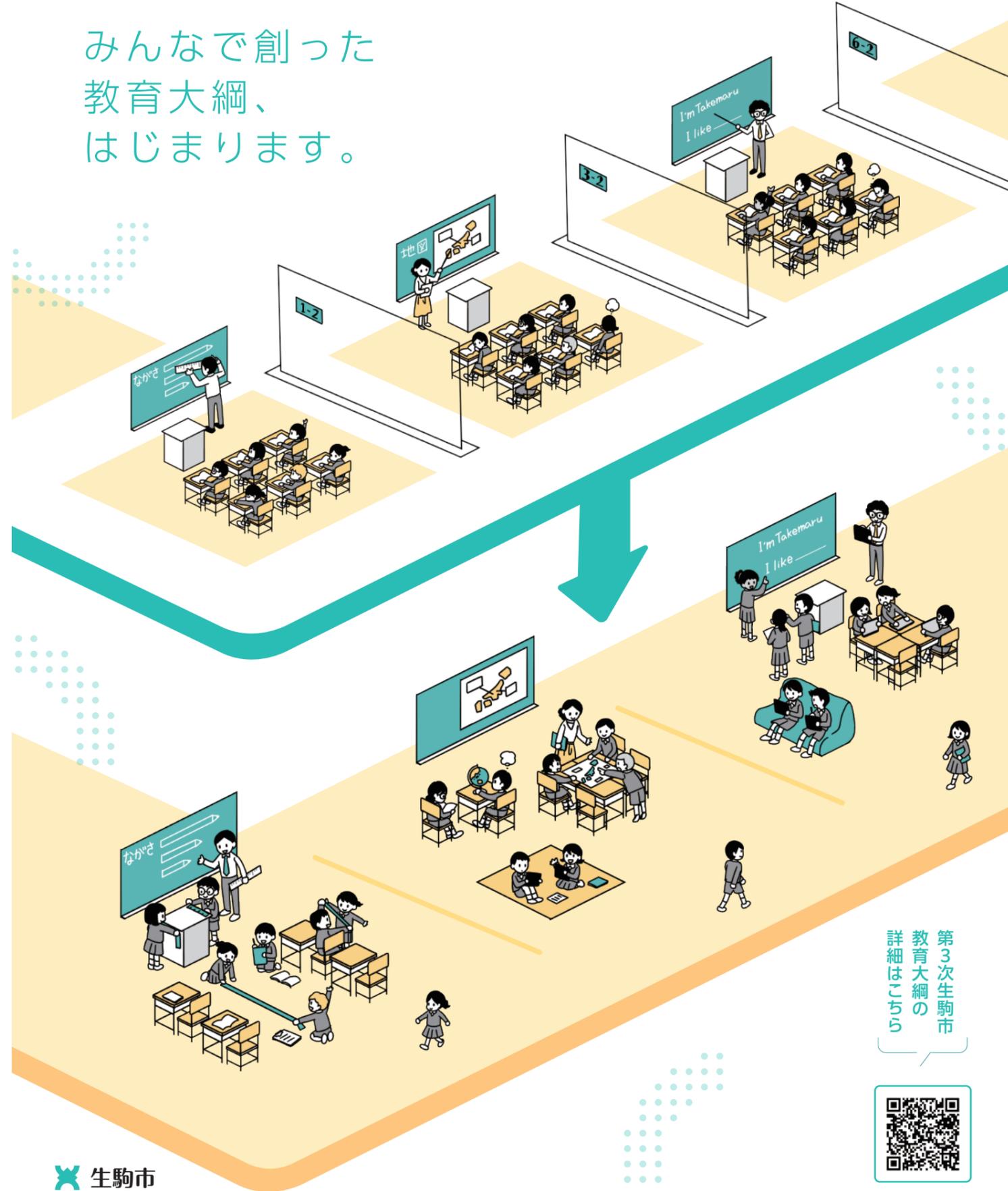
生駒市では、第3次となる教育大綱において、一人ひとりが多様な価値観と多様なつながりの中で、「自分らしく」遊び、「自分らしく」学び、「自分らしく」生き、人生を楽しむことができるような教育への転換に、大きく舵を切りました。

生駒市教育大綱のあゆみ

- 2016年6月
 - ・生駒市教育大綱
 - ・総合教育会議 8回
 - ・ワークショップ 2回
 - ・パブリックコメント
- 2020年6月
 - ・第2次生駒市教育大綱
 - ・総合教育会議 6回
 - ・パブリックコメント
- 2024年6月
 - ・第3次生駒市教育大綱
 - ・総合教育会議 7回
 - ・ワークショップ 18回
 - ・大規模アンケート(2663人)
 - ・有識者による研究会
 - ・パブリックコメント

LIVE MY OWN WAY

みんなで創った教育大綱、はじまります。



第3次生駒市教育大綱の詳細はこちら



これまで、みんな同じペースで同じことを学んでいたけれど、

これからの考え方

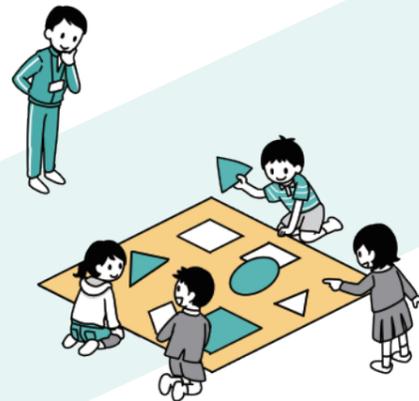
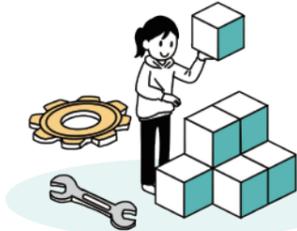
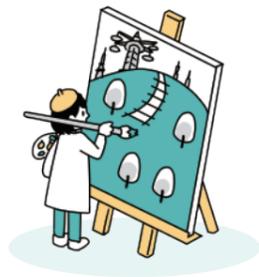
1

自分で選び、自分に合った方法で、自分のペースで学ぶ

子どもたち一人ひとりが、**自分のペースで自分に合った学び方を選択し**、必要に応じて必要な人と共に学び合えるような授業づくりを推進します。

探究的な学びを充実し、自分なりの問いを立て、自分なりの仕方、自分なりの答えにたどり着く、**子どもたちの自己決定を尊重**します。

- 自分で決める主体性
- 個別・協働の学びの推進
- 教科を横断する探究的な学び
- 自分らしく遊び学ぶ



これまで、ちがいで区別していたけれど、

これからの考え方

3

ダイバーシティ&インクルージョンを推進する

国籍、LGBTQ、障がいの有無、不登校、特別な才能を持つ子等、一人ひとりの**個性や多様性をありのまま受け入れ**大切にし、誰もが挑戦、活躍、貢献できる機会を持つことで自己肯定感を高めます。また、その経験を通じて、他者を承認し、他者からの承認を得られるよう、相互承認の感性を育みます。

- 相互承認の感性
- 多様な人間関係を育む
- インクルーシブな場や機会
- 自分たちで解決する力

年齢や障がいの有無、国籍等、置かれた状況に関係なく全ての市民が自分らしく活躍できるよう、身近な地域において自ら学びたいときに学び、新たな知識や情報を得るなど、**主体的な学びを通して自己実現や他者とのつながりを得られる機会の充実**を図ります。



これまでも、地域の方々には学校園に協力していただいていたけれど、

これからの考え方

4

より地域づくりへの意識を深め、「地域と共にある学校」へ

家庭・地域・学校園の連携により、子どもたちの豊かな成長を育むことができるような取組を進めながら、複合的な機能を持ち地域の拠点となるよう、**地域に開かれた学校園づくり**を進めます。

様々な学びを通じて「人づくり・つながりづくり・生きがいづくり」を実現するほか、地域課題への関心を高め、**地域づくりへの意識を醸成**します。

- 地域全体で子どもを見守る
- 世代間交流の推進
- 市民同士の学び合い
- 地域課題への関心



これまで、周りに合わせなければいけないことが多かったけれど、

これからの考え方

2

みんなが楽しく学び個性を発揮できる場をつくる

楽しく通い、学ぶことのできる学校園環境をつくることはもちろんのこと、学校の教室以外の場所でも安心して学べるよう、全ての子どもたちにとって居心地がよく、**個性を発揮しながら成長できる多様な環境・場づくり**を進めます。

文化・歴史・スポーツ・読書等の活動を通じて、市民一人ひとりが個性を生かした役割を持って、**まちづくりや地域づくりで活躍**できるような取組を具体化します。

- 遊びを通じた創造的な学び
- 得意・好きを通じた学び
- 新たな交流や活躍の機会づくり
- 音楽・スポーツ・文化芸術の充実



これまで、先生たちの働き方は二の次にされてきてしまっていたけれど、

これからの考え方

5

先生たちがより楽しく働きやすい環境をつくる

子どもたち・教職員にとって学校園がより楽しいと感じられるよう、**対話を通じて、安心と挑戦との両方を具体化**できる学校園づくりを進めます。

教職員にとって働きがいがあり、社会変化に応じたスキルや力を身につける機会を確保するためにも、教職員の働き方改革に取り組み、**指導・運営体制の充実やデジタル化などの業務改善**に取り組みます。

- 教職員の働き方改革
- 多様な働き方の選択
- リラックスできる空間づくり
- 学校部活動の地域移行